

土から見直す花壇づくり

【講習開催日】令和 5 年 10 月 17 日

【場所】洋光台一丁目公園（磯子区）

【現在の花壇の問題点】

- ・風当たりが強くと背が高くなる花物は倒れてしまう。また風により表土の乾燥が著しい。
- ・粘土質の地盤に花壇が配置されているため土壌が固く締まっており植物の根が十分に張らない状況である。
- ・南向きの花壇であるがケヤキの陰になってしまい十分な日光が得られない。
- ・笹など地下茎で繁殖する雑草類が見受けられる。

【問題点の解決方法】

- ・表土の乾燥を抑えるためマルチング処理をする。
- ・今後、花壇管理が持続可能な環境作りを目指して土壌改良を施す。さらには各植物に対応した土づくりをする。また粘土質で水はけが悪い環境なので花壇中央を盛り上げ有効土壌厚を確保しつつ、表面排水を利用し水はけを良くする。
- ・周辺の地下茎雑草の駆除は難しいため花壇内だけでも根は除去する。

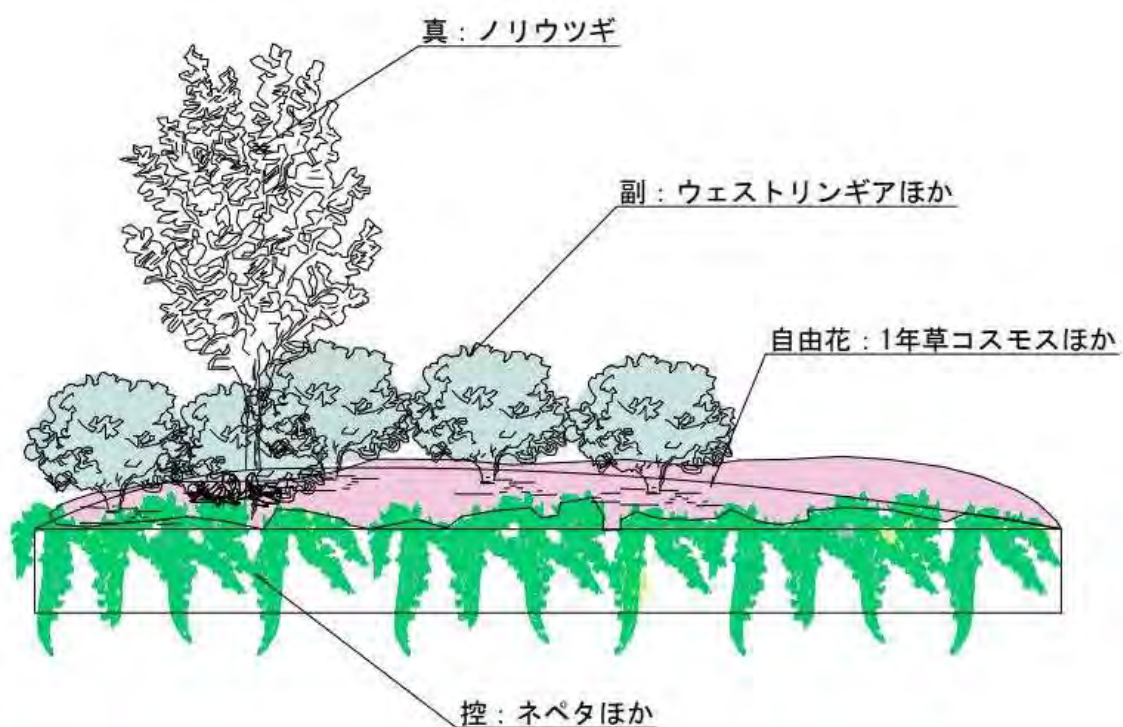
【植物を選ぶポイント】

- ・ヒマワリ、ダリアなど単独で背が高くなる花は控え、こんもりとボリューム感のある植物で高低差を演出する。
- ・半日陰に対応可能な花苗を選定する。
- ・土壌を盛り上げるため土留めの役割もかねてクリーピングタイプの常緑宿根草類を周囲に配置する。
- ・季節感を出すため花壇中央部に 1 年草を数種類植える。(春・秋・冬 3 回植替え)
- ・シンボルとなる植物を 1 か所配置し季節感を楽しめるようにする。

【植物の植え方】

- ・生け花の基本的な配置技法で『真、副、控』の役割を取り入れ不等辺三角形になるように配置する。
- ・フォーカルポイントを見極め植物が正面を向くよう植え付ける。また高低差がある場合は花同士が被らないよう配置する。
- ・ポットを外した際に根が回りすぎている場合は根の 1/3 下方部分をほぐしてから植え付ける。
- ・植物の成長後イメージしながら植え付ける間隔を決める。
- ・土留めを兼ねた苗は竹串等で根鉢を刺し止めして動かないようにする。

【成長後のイメージ】



宿根・常緑・クリーピング

グランドカバーと分類されますが、表土を覆ってくれるのに役立つ植物たちです。主にほふく性のものや、葉を大きく広げて覆ってくれるもの、壁から垂れ下がるものがある。

今回は、ほふく性のものを数種ランダムに植込み、葉色の違いや花を楽しむようにする。

宿根・常緑・立性

花や葉の色合わせや異なる形を組み合わせ、高低差をアクセントに加えるなど、色や形、草姿を考慮して植え付ける。自然にできた草原のような雰囲気イメージし、1年を通じ花のない季節も葉色のコントラストを楽しむ物を数種、配置する。

1年草・秋咲

こちらも花や葉の色合わせや異なる形を組み合わせ、高低差をアクセントに加えるなど、色や形、草姿を考慮してランダムに植え付ける。

12月中ごろまで楽しみ、冬から春に咲く1年草類に植え替える。

【今後のイメージ】

- ・クリーピングタイプの常緑宿根草類は1段目と統一する。
- ・立性の常緑宿根草類は花のない時期でも楽しめるよう、葉色のコントラストが各段で引き立つよう選定する。
- ・1年草は各段でテーマカラーを決め数種類をランダムに配置する。
- ・シンボルとなる植物は、季節ごとに花が鑑賞できる種を各1本配置する。



①講座前

皆さんで色々なお花を植えられています。今一つ元気がない様子です。原因を一つずつ調べて育てやすい花壇を目指そうと思います。



②事前調査

現状の課題ですが

1. 南向きだが木陰
2. 粘土質で酸性に傾きがち
3. 風当たりが強く乾燥しがち
4. 地下茎の雑草類が多い



③土壌改良材の説明

比較的、このような状況は多いと思います。まずは根張りを良くし、通気・保水性を確保します。並行して改良材を用いて土壌を中性に誘導します。



④土壌改良材の投入

まずは比重の重い砂、石灰、化成肥料を混ぜ込みます。

次にバーミキュライト、パーライト、燻炭、ピートモスを投入していきます。



⑤皆さんで攪拌作業

とても重労働です。

この作業をしっかりとすればこの先の管理（除草、1年草の植替え、灌水など）がずっと容易になります。



⑥土壌改良が完了

市販の培養土のような良い土ができました。

数年は簡単な土壌改良（化成肥料、堆肥の漉き込み）で管理可能です。

ふかふかでとても気持ちよさそうです。



⑦植物配置と植込み作業

今回は生け花の技法を取り入れました。それぞれの特徴に合わせて『真、副、控』の役を与えて成長後の姿をイメージして配置していきます。



⑧植物の説明と向き

植物にも表と裏があることにお気づきでしょうか？
圃場では南向きに成長します。
フォーカルポイントに正面を向かせると腑に落ちる風景ができます。



⑨根崩しの説明

成長が早い品種ほど根の回りが強いです。
このままではうまく根が張りません。ハサミを使わず指でほいでいきます。



⑩1年草の植付

秋の1年草は『自由花』として
皆さんに植えていただきました。
この部分は季節ごとに植え替え
て花を楽しめるようにします。



⑪目串打ち

『控』には数種類の地被類を配
置します。
土留めの役割も担うため、寝か
せて植えて目串で止めます。



⑫灌水の説明

最初の灌水はとても重要です。
ホースで直接、根元に流し込み
根鉢の隙間に土を流し込みます。
活着が進み、根が十分に広がり
灌水が効果的になります。



⑬マルチング

仕上げにマルチングです。
残った堆肥を敷き込み、表土の
乾燥と雑草の発生を抑えます。



⑭完成しました

木漏れ日の中で可愛らしい花壇
ができました。

植物が成長した景観が楽しみ
です。



熱心に取り組んで頂きました。
ありがとうございます。



はまっ子ユークキ

横浜市内の公園緑地や街路樹などの剪定枝や刈草を原料で出来た堆肥です。

土の微生物が活発になり、土がふかふかになります。

また今回はマルチングにも使用しました。



バーミキュライト

主に砂質土の改良に使います。

苦土蛭石を焼いた物で隙間や穴がたくさん空いています。

土の中に酸素が行き渡るため、根っこにも酸素を届けられます。



パールライト

主に粘土質の改良に使います。

真珠岩を焼いた物で軽く多孔質でやわらかな質感の改良材です。

水もちに優れており、乾燥しやすい土壤に有効です。



ピートモス

腐植化した泥炭（でいたん）を脱水、粉碎、選別したものです。

腐葉土によく似た性質を持ち、保肥性が高く有機物の分解を促進します。

しかし酸性なので石灰を加えて中性にしたり、アルカリ性のpH値を下げるために使用します。



燻炭

pHが8-10のアルカリ性で水はけや通気性、保肥性がよくなります。

連作障害を防止してアブラムシ、ネキリムシの忌避効果もある万能改良材です。



有機石灰

牡蠣やホタテの貝殻、卵の殻などを原料にしたアルカリ性の改良材です。

土が酸性に傾いている時だけ少しずつ溶け、中性の場合にはほとんど溶けません。

混ぜ込んですぐ定植できるのが利点です。



化成肥料

今回は基肥でマグアンプKを使用しました。

リンサンが強く、花付きや実成が良くなります。また根から出る酸に反応するので効果が長続きするのが特徴です。

今回使用量

はまっ子ユーキ18L 4袋

バーミキュライト30L 2袋

パーライト10L 6袋

ピートモス18L 2袋

砂10L 6袋

燐炭12L 2袋

有機石灰10 k g 1袋

化成肥料1.3 k g 1袋

No.



ノリウツギ

落葉中木

開花期は夏～秋になります。

お花の少ない夏の時期を賑わせてくれるアジサイです。

円錐状の花形が特徴的。

新枝咲きなので2月までに剪定をすれば開花します。



ウェストリンギア

常緑低木

生育旺盛、樹高は1-1.5mほど。

剪定にも強く環境に合わせて自由に樹形を作ります。

年間を通じてかわいらしい小花を咲かせるので重宝します。



カラミンサ

宿根草

草丈は50cm程度で、爽やかな

ミントの香りがあります。

花期も5月-11月と長く、冬になると地上部を枯らします。



ガウラ

常緑性多年草

草丈は50-80cm位で蝶が飛んでいるように咲く可愛らしい花です。

花期も5月-11月と長く、非常に丈夫です。



シュウメイギク

半常緑性多年草

秋に咲きますがアネモネの仲間です。

日陰でも良く育ち、年々大株になりたくさんの花が開花します。



ヘリオプシス

多年草

姫ヒマワリとも呼ばれますがヒマワリを小さくした花を多数つけます。

開花期間も6月から10月ごろまで長く、地中の株元に多数の芽ができてふえます。



ネペタ

多年草

キョウチクトウ科とも呼ばれ遠目にラベンダーに間違えられるくらい綺麗な花を咲かせます。開花期間も4月から10月頃まで長く、丈夫で栽培しやすい品種です。



ローズマリー這性

常緑低木

日本の気候でよく育ち、霜にも比較的耐えます。水はけが良く、乾燥した場所で育てるとより成長します。



クリーピングタイム

常緑性多年草

繁殖力旺盛で横にどんどん広がっていくため、グランドカバーとしてよく利用されています。花期は4月-6月でピンク花を一面に付けます。



リシマキア

丘でも成長しますが水辺など
湿り気のある場所に植えると

よく繁茂します。

水はけが悪い部分のピンチヒッ
ターとして重宝します。

葉色も鮮やかで花が無い時期に
は彩を加えてくれます。



ゴシキトウガラシ

鑑賞用トウガラシで実・葉色も
鮮やかで使いやすい品種です。

観賞期間がとても長く多様な
品種が流通しています。



ケイトウ

花がニワトリのトサカに似てい
ることから鶏頭と呼ばれてい
ます。

とてもカラフルで秋の花壇を華
やかに彩ってくれます。



コキア

ほうき草とも呼ばれ茎は乾燥させてほうきの材料になります。

円錐形の可愛らしい形で10月になるとだんだん紅葉していきます。

こぼれ種でも楽しめます。

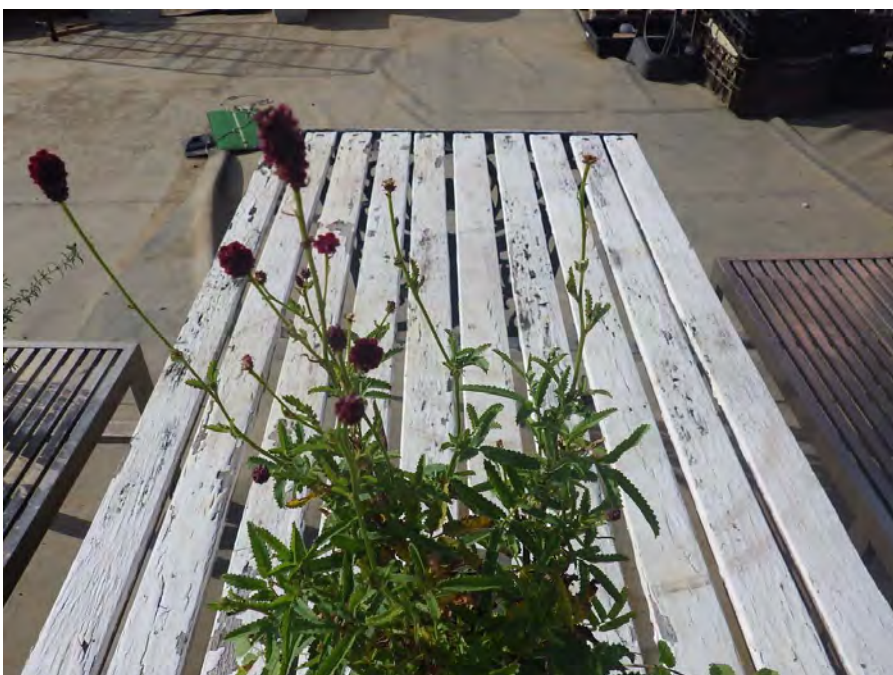


コスモス

秋に咲くお花の代名詞。

あまり土質を選ばずに育ちます。

こちらもこぼれ種で広がっていく、あちこちで咲く姿はとても可愛らしいです。



フレモコウ

多年草

秋の風にそよぐ花はどこか寂し気を演出してくれます。

バラ科の落葉性多年草で丈は20-80cm位。日当たりがよく、風通しのよい場所を好みますが半日陰でも成長します。